

令和6年度 大田区区民協働推進会議（第3回）

日時：令和6年9月12日（木）

場所：消費者生活センター第5集会室

【議題】

- 1 令和7年度のチャレンジ・チャレンジプラス助成[新規]審査員・審査スケジュールの決定
- 2 令和6年度実施スタート、ステップ、チャレンジ・チャレンジプラス助成[継続]審査員・審査スケジュール決定
- 3 調査研究の経過報告について
- 4 その他

【出席者】

委員：牛山・中平・和田・濱住・浜・芦川・中原・栢沼

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当係長・区民協働担当1名・協働推進アドバイザー1名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和6年度、第3回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。本日は中島会長からご欠席のご連絡をいただいております。このため、議事の進行、後ほど、牛山副会長のほうにお願いしたいと存じます。また、安武委員、酒井委員、岩井委員からご欠席の連絡をいただいております。ただいま、委員12名のうち8名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条の規定に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。</p> <p>本推進会議につきましては、議事録作成のため、録音させていただいております。ご了承ください。</p> <p>それでは、牛山副会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
副会長	《牛山副会長挨拶》
事務局	ありがとうございました。ここからは、牛山副会長に進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。
副会長	会議次第に沿って進めたいと思います。令和7年度実施事業[新規]チャレンジ助成・チャレンジプラス助成審査員・審査スケジュールについてということで、事務局よりご説明をお願いいたします。
事務局	<p>令和7年度実施、チャレンジ助成・チャレンジプラス助成の審査員及び審査スケジュールについてご説明させていただきます。</p> <p>まず、チャレンジ助成・チャレンジプラス助成のご説明をさせていただきます。チャレンジ助成・チャレンジプラス助成ですが、チャレンジ助成は新たな地域課題や新規事業にチャレンジする地域の連携協働の深まりが期待できる事業への助成ということで、1団体当たり最大200万円の助成の制度になっております。</p>

	<p>また、チャレンジプラス助成のほうが、そのチャレンジ助成と目的は同じなのですが、区が設定したテーマに沿った新たな事業に対して助成させていただく制度で、こちらは1団体当たり最大250万円という上限になっている制度となっております。</p> <p>今回、区から募集させていただくチャレンジプラス助成のテーマが大田区で働く福祉の仕事、魅力発信事業となっております。こちらは福祉部から提案させていただくテーマとなっております。</p> <p>福祉人材が、今後、需要がさらに高まる中で、福祉人材がなかなか集まらないというところに課題感がありまして、福祉の仕事の魅力を、若い人やこれから福祉の仕事をするような方たちに、うまく区民活動団体様の力をお借りして、魅力を発信していったら、福祉をすごく魅力ある仕事と捉えていただいて、ボランティアでも結構ですし、仕事としていただくのも結構ですが、福祉に長く携わっていただく人を、区内で携わっていただく人を増やしていくような取り組みができないかということ、区民活動団体に協力いただくようなテーマとなっております。</p> <p>こちらのチャレンジ助成とチャレンジプラス助成募集を10月3日から開始して、審査をして、採択していくという流れになります。</p> <p>まず審査についてですが、書類審査からスタートさせていただきまして、その書類審査が11月下旬から12月中旬から下旬にかけて、書類審査をさせていただいた後、書類審査が通過した団体に関しましては、公開プレゼンテーションという形の面接審査を実施させていただきます。</p> <p>その後、そのプレゼンテーションを経て、2月の中旬の推進会議で推薦団体をお諮りさせていただきました後、区長への推薦団体を決定して、来年度の実施事業、採択団体が決まるという運びになります。</p> <p>一旦、私のほうからは説明は以上となります。</p>
副会長	<p>ご説明いただきありがとうございます。</p> <p>委員の皆様から、ただいまの説明につきまして、何かご質問やご意見等ありましたらいただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
濱住委員	<p>今回、チャレンジプラスに関して、区のこのテーマ設定したということで載っていませんけど、大田区の奨学金も、ご存じのように福祉事業に、その卒業後、奨学金借りた後に、福祉の分野で、大田区に在住してだったかな、5年間勤めると半額免除だったのが、今年度から全額免除に拡張するということでは、福祉人材育成と定着を区としてもしっかり取り組んでいるのかなということで見えてきてます。</p> <p>今回、このチャレンジプラスでもそういった福祉の仕事の魅力発信事業となっていて、例として、SNS等を利用しての仕事のイメージアップに取り組む事業となっているんですけど、この事業の中身にどういうふうな応募してくるのかと、イメージがつかないです。</p> <p>もう一つは、このチャレンジプラスで使える経費の内訳の中に、恐らくSNSを活用</p>

	<p>して広告宣伝やると、当然、そこに携わる広告に、詳しい人件費だとか、あるいはFacebookなんかは、Facebookにお金払うといっぱい撒いてくれるシステムがあるんですよ。そういうものに使えない形なので、ちょっとそういうところの相性が、ちょっと難しいのかなと思ったんで、どんな事業を、これ、イメージは出てくるのかなというのが、ちょっと私、勉強不足もあって見えづらいので、何か、その辺、もしどんな感じでやられるのかなというのがあって、恐らく福祉をやっている方が、自分のところの人材募集のためにホームページ強化するのは、それは駄目だと思うので、そういうのがちょっとイメージしづらいので、もし浜さんなんかは、もう何かイメージがあったら、ぜひ、何か、こんな感じというのがあったら教えていただきたいなと思っています。以上です。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も、どんなイメージがあるのかなというのは、ちょっと所管課に聞いてみればいんでしょうけども、どんなイメージですかね。</p>
事務局	<p>所管課ではないのですが、おっしゃるとおり、SNSを利用してというところになってくると、ほとんどが委託料になってしまって、団体の力というのが、さして必要はないんじゃないかというような向きもあるのかなというのが、我々も、最初ご提案いただいたときに、危惧したところであります。</p> <p>なので、あまりSNSに傾倒し過ぎないことを、こちらからもお伝えはしていました。ただ、所管課の課題感として、SNS以外のことというのは、当然福祉部でもいろいろ取り組んでることがあって、ただ、どうしても行政が弱いのはこういった情報発信の部分が弱いので、できればこういったところにもアプローチしてくれる取組を、手を挙げていただければなという要望はありました。</p> <p>ただ、こちらとしても、なかなか制約がしづらいところもありましたので、SNSを含めて、かつ福祉にあまり詳しい団体でない手を挙げてはいけないというと、かなり限定的になってしまうので、そこはヒアリングを重ねた中で、福祉に精通ではなく、その福祉の仕事をどう魅力的に伝えていく、日頃、割とお付き合いのある福祉部だと、福祉団体とかいろいろお付き合いあるんですけど、そうでない人たちの、アイデアを広く募りたいので、こういうテーマを出したいということでした。</p> <p>ただ、SNSに関しては、団体さんもすごく心配される場所があるかと思うので、この募集説明会の中には、その福祉部の職員も来て丁寧に説明はするのですが、応募しようかなと思っている団体に丁寧にヒアリングするなり、疑問を少しずつ解消して、よりよい形みたいなものを考えていければなと思っております。</p>
副会長	<p>浜委員、何かございますでしょうか。</p>
浜委員	<p>福祉の仕事の魅力を伝える、イメージアップに取り組む事業ということなんですが、事務局がおっしゃったように、キャッチするのは詳しくない人でもいいと思うんです。ただ、福祉の事業に詳しくないと、こういう資格を持っているからこういう職種がある</p>

	<p>とか、資格がなくてもやれる職種があるとか、そういうところで入り口、見てくださったり、この情報をキャッチした人が入り口として入りやすいものでないという意味がないというか、福祉部がどうお考えかはよく分からないんですけど、人材センターさんを福祉部はもっていて、人材の確保や定着を進めていらっしゃる中で、この事業はどういうふうにしたいのかというのが、やっぱりちょっとはつきりしないと手を挙げる団体が非常に難しいかなと思います。</p> <p>大田区は、珍しく福祉事業は8事業所別に自分たちで会費を出し合って、連絡会を構成しているんです。ですので、そういう連絡会とも協力してもらいたいし、もしやるのならばみたいなこともあるし、福祉部がどのような構成をお考えになって出してきたのかというのが、やっぱり分かりにくいと、何かすごいぼんやりとしたものが出来上がって、終わっちゃうみたいな感じが危惧されます。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりかなと思います。福祉分野に精通していなければ、していないと、逆にどう魅力を、どこをフォーカスして魅力を伝えるかが、結局意図しないような形で展開してしまうとまずいというところは確かにあります。ただ、話の中でどういったところの団体が手を挙げ、そこが福祉団体でなかったとしても、もともとこの地域力応援基金助成事業、特にチャレンジとか、チャレンジプラスの規模感になってきますと1団体だけで全てを完結してほしいというところよりも、さらに連携協働を行って、広く手を携えてこの事業を成功させてほしいというところもありますので、手を挙げる団体と連携する団体というのは、もう当然、やっぱり福祉に関連する団体や所管課とも、当然協働しながらやっていく必要があるかなというのがあります。</p> <p>恐らく、福祉部もそういった意図はもともと含んでいて、恐らくこの募集説明会を、10月3日に行うんですけれども、恐らく多分いろんな団体様からいただくような形になるかと思しますので、そこはその団体だけでとかではなく、専門知識がなくても、こういうやり方で達成してほしいんだというところを丁寧にお伝えして、そのふわっとしてしまわないような形でやっていければかなと思います。</p> <p>ちなみに、この福祉の仕事をどういった方たち、基本的には、何か、取材したり、そういった方たちを、専門家をお呼びして、それを区民の方にお伝えするというような事業を、恐らく想定されているというところでは、そういった人材に関しては福祉部が調整を行って手配するような形になっていくということになりますので、必ずしも、先ほど冒頭お話しましたように、福祉に精通している団体でなければ、これは、絶対事業はできませんよというようなつくりにはならないのかなと思っています。</p> <p>そこはやりようを丁寧に考えないと、ふわっとした事業になりかねないというところで、事務局も含めて、慎重に考える必要があるのかなとは思っております。以上です。</p>
副会長	<p>次、ご発言いただこうと思っておりました。中原委員、いかがでしょうか。</p>
中原委員	<p>福祉の仕事をどのように捉えていらっしゃるのかというのが分かりません。いわば、これは仕事として、職業としての福祉の仕事なのか、それともボランティア活動までも含めた福祉の仕事なのか、例えば、子ども・若者など幅広い年代に対してというこ</p>

とであれば、福祉というのは職業だけではなく、地域福祉がまさにそうなのですが、みんな地域共生社会をつくっていきましょうというのが地域福祉の考え方なんです。

そういう意味でいうと、子どもに対しての福祉教育というのを、行く行くは福祉の仕事の中にあるだろうし、そういうふう大きく捉えていくのか。それとも、職業というだけのものなのか、それとも発信なのか。

例えば、私ども社協でいろいろ宣伝してるんですが、誰かのために何かができるというショートバージョンで映画をつくりました。これは、ある若者に焦点を当てて、見守り活動している、最終的には、その若者が、何か、私のこれからの生き方の中でちょっと考えが、ちょっとまとまったよというのが最後なんです、そういうふうに、それは福祉という職業に就かないけれど、地域の中で活動していくということは、これも仕事の中の一つだというふうに思うんです。そこまで、広げて考えるか。

これ、250万まで大丈夫ですよ。私どもの映画は、金額は言いませんけれども、250万だとかなりのことができるんです。そうやって、なので、おっしゃるとおり、福祉と、その福祉じゃないというのを、もう分ける必要ないんじゃないかというふうに思っているわけです。

それじゃあ、この仕事をどういうふう考えるかによって、このテーマが決まってくるんじゃないかなと。福祉部、福祉部と言ってますけども、これは地域力推進部の事業ですし、やっぱりこれは一緒になって考えていくと、所管は、あくまでも、これは地域力推進部の所管なんじゃないでしょうか。

それに対して福祉部がこういうことをやりたいと、今、部に人材も含めて福祉に対しての力がもっと欲しいという、福祉部の思いだというふうに思いますので、その辺はもう少し、お互いに意見交換なさったほうがいいかなというふうに思います。

事務局

ありがとうございます。福祉部からご提案があったときは、割と狭めにSNSというところと、なおかつ人材の確保みたいなところのご提案ではあったんですけども、やはりそれだとこの事業となじまない。というのは、事務方のほうで何回かやり取りして、そういう提案があればもちろん一番いいし、今、委員お話しになったように少し福祉の仕事というのを広げて、ここも、対象も、いわゆる子ども、直接、今、福祉の仕事に将来就くとかということじゃなくて、福祉の理解というか、そういうご提案があればそれも拾っていきたいというところで調整はさせていただいたので、うまく、ただ、そういう形のご提案がいただけるように少し丁寧に、これから団体のほうにも働きかけていきたいなと思うんですけども、人材につながらない提案だから駄目ということでは決してございませんので、その辺はご理解いただければと思います。

副会長

ありがとうございます。今、ご議論いただいたように、どういう事業を採択するのかというのがなかなか難しいのと、あと、今、中原委員のお話があったように、映画をつくられてということで、大田区の魅力を発信していますが、結構、福祉の人材として働こうという意欲は持っても、大田区でというのはなかなか、どうアピールするかとか、いろいろ課題があるのかなと思うんです。それで、そういうのは、何ていうのですか、事前にそんなこと言うべきじゃないかもしれないですけど、応募はありそうなんです

	<p>か。</p> <p>そもそもないと審査もならないので、言いづらいかもしれませんが、そういうのを 出せばやってくれそうなどという状況は大田区にあるんですか。</p> <p>完全に出来レースな状態になるようなことは、もともと想定もしてないので、こうい った団体が手を挙げるんだらうなどという目星がついてるかといったら、決してそうでは ないです。</p> <p>ただ、申し上げましたとおり、限定的に捉えると、それこそ本当に区民活動団体が取 り組む意味はという話にもなりますし、手が挙がる可能性はほぼないだろうと、こちら も所管課といろいろとヒアリングを重ねて、調整した中で、我々地域力推進部でこの事 業を、募集をかけるというところで、福祉の専門的な仕事だけにフォーカスするのでは なく、ボランティアも含め、福祉のことをまず知ってもらい、福祉を身近に感じてもら って、地域で支え合うような福祉というような観点も含めて考えていく。</p> <p>なので、そこで行っている福祉だけではなく、地域でも支え合っている福祉というの は成り立つというところの観点から、ふだん地域活動、区民活動されている団体様の視 点をお借りして、幅広く魅力を発信していく、いろんな多世代に魅力を発信していく事 業ということで、説明をした中で、団体様の応募をお待ちするという形になるのかなと 思いますが、ちょっとめばしいところあるかというとならないです。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。そういった意味で、幅広くいろんな事業が提案されてくるこ とを願っています。ほかには何かございますでしょうか。進め方につきまして、ご了承 いただけますでしょうか。それでは、事務局、（案）の形で進めさせていただくとい うことで、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、令和7年度実施事業〔継続〕スタートアップ助成、ステップアップ助成、 チャレンジ助成・チャレンジプラス助成審査員・審査スケジュールについてということ でお願いいたします。</p>
事務局	<p>先ほど、ちょっとお話しいたしました地域力応援基金助成事業のスタートアップ助 成、ステップアップ助成。チャレンジ・チャレンジプラス助成、こちらは、今現在、令 和6年度、絶賛実施中の事業になりまして、地域力応援基金助成事業自体が、最長で2 年受けられるような制度になっておりまして、今、令和6年度実施事業の中で、希望団 体になりますが、令和7年度も継続して事業を実施したいという場合に応募をいただい て、それについて審査をいただくというような制度になっております。</p> <p>こちらは、面接審査はなく、書類審査のみという形になっております。実施時期にな りますが、令和7年2月中旬を想定しております。書類審査の後、令和7年3月の開催 の年度最後になりますが、協働推進会議の中で推薦団体をお諮りさせていただいて、採 択、令和7年度の継続実施団体を決定させていただくという運びになります。</p> <p>一旦、以上になります。</p>

副会長	<p>はい、ご説明ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきまして、皆様からご質問やご意見、ございますでしょうか。</p> <p>《審査員について、再度調整》</p>
事務局	<p>もう一度、この区民協働推進会議第4回が12月開催予定というところになりますので、そちらでもう一度調整の上、お諮りいただく機会がございますので、改めてちょっとそちらでお話しさせていただければと思います。</p>
副会長	<p>それでは、審査員につきましては、調整の上、次の会のおきにお示しをいただくというところでよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、次に、報告事項ということになります。調査研究に関する経過報告ということで、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>こちらは、前回の会議でもお話しさせていただきました、令和5年度・6年度の調査研究としまして、区民活動支援施設及び中間支援機能についての調査の中で、まず、アンケート調査を実施いたしますということをご説明させていただいたかと思ひます。</p> <p>調査期間としましては、2024年の5月20日から6月30日の間にウェブによるアンケート調査を実施いたしました。こちらの調査研究に関しましては、アンケートの作成から協働推進アドバイザーにご協力いただきまして、アンケートを実施いたしました。ちょっと詳細のほうは、協働推進アドバイザーからご説明させていただければと思ひます。よろしくお願いたします。</p> <p>《今回のアンケートの実施概要・結果のポイントについて説明》</p>
事務局	<p>続きまして、こちらのアンケート結果を踏まえまして、中間支援機能等に関する分科会のほうを実施させていただきましたので、そちらの報告を続けてさせていただきます。</p> <p>こちらは、令和6年7月24日に、こちらのm i c s おおたで分科会のほうを開催させていただきました。出席いただいた委員は、安武委員、中平委員、濱住委員、浜委員。そして、事務局と協働推進アドバイザーを加えて、分科会のほうを行いました。</p> <p>内容としましては、先ほど、ご説明させていただきましたアンケート結果のまず共有というところと、あと、今後、ヒアリングを行っていく他自治体の施設の選定というところが主な議題になりました。</p> <p>調査研究をまとめていくにあたってのこれまでの状況であったり、ここまでの感想みたいなところを、委員の方からお話を伺えればと思ひます。浜委員から分科会のところの様子から含めて、お話をいただければと思ひます。</p> <p>《浜委員、濱住委員、中平委員感想》</p>

事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご説明いただいたとおり、ほかにも、たくさんの意見が出ましたけど、アンケートの結果を踏まえて、いろいろとお話しさせていただきました。</p> <p>大田区が持っている区民活動支援施設、蒲田、m i c s おおた、区民活動支援施設、大森、こらぼ大森、こちらの現状は、アンケートから見えていた部分、現実というところもすり合わせる形でヒアリングを実施していく予定です。</p> <p>また、他自治体というところで、この分科会の中でも少しご意見をいただきながら、候補を挙げさせていただいた所が、世田谷ボランティアセンター、あとは、郊外の市民活動の施設で、さがみはら市民活動サポートセンターも候補に挙げさせていただいております。</p> <p>それで、こちらのヒアリングを実施しつつ、また、お手数ですが、分科会を改めてここで開催させていただいて、調査研究というのをまとめていくような流れにさせていただければと思っております。</p> <p>事務局からは、一旦以上です。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。また、分科会の皆様、ご発言をありがとうございました。</p> <p>ただいまのアンケート、それから、分科会の報告につきまして、ほかの委員の皆様、何かご質問やご意見、あるいは同意、ほかの皆さんでも何かあれば、いただければと思います。いかがでしょうか。</p>
中原委員	<p>このアンケートの結果は、とても興味深いアンケートだなというふうに思いました。中間支援施設としての求めるものに、具体的なm i c s おおた、それから、こらぼ大森との格差があるかなという気がしました。実際上の6の二つの施設に対する求めるものと、理想的な意味での中間施設というのを求めているというふうに私は感じました。</p> <p>これは、中平委員がおっしゃった、目の前の活動場所というのは、もうどなたでも欲しい。しかし、大田区73万で活動団体がたくさんありまして、m i c s おおた、オーちゃんネットだけでなく、いっぱいあるんですよ、町会でもやっていますし。そういった居場所というのが、とても重要だというふうには、とても言われているんです。</p> <p>そうした場合は、新しい区民活動施設で足りるわけがないんですよね。例えば、空き家対策みたいなものもあるだろうし、こらぼ大森では、活動団体ですよ。あるいは高齢者の居場所というのがありましたけども、老人憩いの家。老人憩いの家は、今、私どもがやっているんですが、子どもと高齢者の多世代の交流の場としての使い方も、今やっているところなんです、試験的に。</p> <p>いろんな形を、機能を持っていかないといけないから、ハード面だけじゃないという。目の前は、みんなハード面なんですけど、ずっと考えていくとそれだけじゃ難しいところだと思うんです。</p> <p>なので、中間組織としての機能をどうしたらいいか。例えば、区民協働コーディネーターという人をつくって支援をしていく。それで、いろんな情報を持っていて、あそこならあそこ、こういう居場所があるよとか、一緒にやってみないかとか、何かそういった時代に、流れに差しかかっているかなという気がしているんです。</p>

	<p>その点は、いろいろご意見もあるかと思いますが、そういった機能的な意味での中間支援施設ということを考えていけないかなというふうに、今、聞いていて思いました。それをするには、このアンケートは、とても重要なアンケートかなというふうに思いました。</p> <p>以上です。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかには、いかがでしょうか。ただいまの中原委員のご発言について、事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりかと思えますし、ただ、まだ事務局の立場でそこまでお話しできるところへは、これからの調査研究を深めていく中で、こういう施設である、こういう中間支援機能を持つべきなんじゃないかという方向性が、この後、出てくるのかなと思います。</p> <p>最初にその調査研究のテーマをお示ししたときにも、中原委員からいろいろとご助言いただいたかなと思いますが、施設のハード面なのか、ソフト面なのかという点で、ハードには当然限りがありますし、拠点とか、その居場所が必要という団体を全て包含するような施設をつくるというのは、非常に難しいかなという意味では、やはり施設が持つ機能であったり、そのコーディネート機能は、そこも中間支援機能の一部なのかなと思っております。大田区は広い所ではありますし、その他自治体であったり、そのようなところを聞きに行きながらも、他自治体のまねをそのままするというのではなく、大田区にそれを落とし込んだときに、どういった機能を持つべき施設があると、区民活動だけではなくて、いろんな団体様に向けていい施設拠点になっていくのかなということを考えていく、これから作業になるのかなと思っております、すごく貴重なご意見ですし、そのとおりでなと思っております。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかには、いかがでしょうか。</p> <p>私も、今の中原委員のご発言や、あと、分科会のメンバーの皆さんのご発言を伺っていて、なかなか難しいなと思ったのは、これは、アンケートのタイトルが「区民活動支援施設について」というあたり、何か施設について聞くんですよという感じになっているんだけど、その中身は、やっぱり中間支援機能について聞いているところがあり、ただ、中間支援機能と聞いても、やっぱり施設がm i c sおおたとか、こらぼ大森というのがある中で、そっちにやっぱり答えが行ってしまうみたいなのもあって、そういう点で言うと、これは質問というよりも、そもそも持っている内在的なこの施設についての意識の問題で、例えば、先ほど、中原委員からお話があったように、やっぱり最近、子どもの居場所はいっぱいあるんだけど、疲れたけど、高齢者はどこ行ったらいいか分からないとかいうのもあったりとか、ちょっとこれは、私もちょっと関わっている春日部市なんかだと、新しい施設なんか、県の施設ができて、その中のワンフロアみたいなのを大きく使っているんですけど、何かほとんど高校生が勉強しているという、何</p>

<p>協働推進 アドバイザー</p>	<p>のための施設なのか。</p> <p>だから、一応苦勞して、そこに来ている高校生にチラシを配ってみたらどうかとか、そういうのを勉強しに来るんだったら、少しは、市民活動をやれとか言ってみようとか、何かいろいろ苦勞して議論をしていたんですけど、何かそういったような高齢者の方たちも少しは関心を持っていただけるようなとか、せっかく涼みに来たついでに何かちょっと見ていってもらおうとか、みたいなこともきっとあるのかなとは思っていますよね。</p> <p>だから、その辺りをどういうふうはこのアンケートから読み取るのかということですよ。</p> <p>それで、あともう一つは、このアンケートのところで言うと、アドバイザーのお話の中で、回答率は、ほぼ前回並みということだったんですが、この22.5%という数字が、私の推測というか、可能性みたいで言えば、休憩している団体みたいなのが、結構あるのかどうなのかということですよ。</p> <p>だから、実際には、もっとこの回答率以上に各団体の意見を反映している可能性もあるし、逆にそうでないとするならば、関心がないという、その読み取りを少し実態と合わせて、この回答率のところ団体の活動の実情と合わせて、少し思っていることがあると思うんですね。</p> <p>それで、その上で面白かったのは、3年以上継続すると、スキームのニーズは低下して、むしろ違うほうに支援の期待が高まるというのは、これは、ちょっと面白いなということですね。そうだとすると、やっぱり継続して活動するというのの意味みたいのが出てくると思いますし、あと、その1ページ下に出ている、これは、ちょっとアドバイザーに伺いたいんですけど、この地理的要因というのは、分かりますよ。要するに場所に近いか遠いかということだと思んですけど、それは、地域的要因なのかな。何か地理的は、山があると川があるとか、だからというようなことだと思うので、そういう意味で言うと、その近い所を使うというのは当たり前といったら当たり前なので、その辺のところをこの大きく書いている地理的要因というのは何なのかなというのがあるかと思えます。</p> <p>さっき、申し上げたことと関連して、施設に期待することと支援内容に期待するところとずれがあるので、やっぱりこの次にあるような、この論点が出てくるのかと思うので、本当に中原委員がおっしゃられたように、よく読んでいくと非常に今後役に立つアンケートだなと思しますので、その辺りで、もし何かコメントがあれば、お願いします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今、牛山島副会長、先ほどの中原委員からのコメントも踏まえて、少しコメントをさせていただきます。</p> <p>まず、この調査設計の作り方として、先ほど、中原事務局長がおっしゃったように、まず、一般的にみんなが中間支援としてどういうものが必要だな、理想的なものについてお伺いをして、その後、じゃあ、それを大田区で落とし込んだときにどういったニーズがあるか、課題があるかというところが知りたいがために、こういった調査設計にさせていただいたというところがございます。</p>
------------------------	---

	<p>それで、このアンケートのタイトルも、中間支援という言葉が最初、使っていたんですが、ちょっと事務局とも相談する中で、このタイトルで果たしてどこまで皆さんが回答していただけるかという意味で、その中間支援の言葉の認知度とその言葉の中身の難しさ、多様性を踏まえたときに、だとするなら、実際、アンケートのボリュームとしましても、実際、こらば大森とm i c s おおたのことについて聞く設問がかなりを占めておりましたので、タイトルとしてはこのような、ちょっと「中間支援」という言葉を除いて、「施設のアンケート」というタイトルにさせていただいたという、まず、経過があります。</p> <p>その上で、実際は、施設のことを聞いているんですが、そこに求める機能の話についてのアンケートが主要な設問でございまして、そこは、牛山副会長のご指摘のとおりだと思います。</p> <p>それで、その地理的な部分につきましては、ご指摘のとおりで、要は、近しい所を使っている蒲田の人たちは、大森の施設は使わないといった物理的な距離感の話でございますので、ちょっと地理的という言葉が、言われてみれば確かにちょっと「山」とか、「川」とかのイメージですので、この文言は、少し精査をさせていただきたいと思いません。ご指摘、ありがとうございます。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかには、よろしいですか。</p> <p>事務局、協働推進アドバイザー、アンケート等、ご発言をありがとうございました。また、分科会の委員の皆様におかれましても、活発なご議論、それから調査項目の精査等いただきありがとうございます。引き続きよろしく願いたします。</p> <p>それでは、今のご報告事項については、以上いうことでございます。予定しておりました議題は以上になりますが、何か委員の皆様からほかに審議すべき事項、あるいはご報告はありますでしょうか。</p> <p>それでは、その他、事務局のほうから報告をあれば、お願いいたします。</p> <p>《事務局から事業の報告事項》</p>
副会長	<p>はい。それでは以上となりますので、最後に、地域力推進部長からご挨拶をお願いいたします。</p> <p>《地域力推進部長挨拶》</p>
副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>次回、第4回の日程でございますが、12月頃を予定しております。詳細につきましては、後日通知させていただこうと思っております。</p> <p>以上です。</p>

副会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>活発なご議論、あるいはそのご報告ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。どうも、本当に皆様ありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>
-----	--